



創立35周年記念式典にて挨拶をされる初代・第2代山田勝智理事長(右)。第35代椎名修理事長(左)。



宗像青年会議所認証伝達式。

原稿を書くにあたり、真つ先に脳裏に浮かぶ方がおられます。明治18年(1885年)宗像の地に生まれ、生涯この地域と人をこよなく愛された出光興産(株)の創設者である出光佐三氏です。宗像JCは1975年、スポンサーである(社)直方青年会議所のご支援のもと、(社)日本青年会議所より第590号の認証番号をいただきました。遡ること10年前の1964年、当時の宗像は新聞紙面に掲載される程に教育闘争の拠点として高名を馳せ、悪化の一途を辿っていました。出光佐三氏は宗像地域の将

来を案じ、地元青年を東京に呼び寄せ、若者が覚悟を決めて行動することの大切さを指導していただいた後も、物心両面にわたるご支援を賜ったおかげで、宗像JCの礎を築くことができました。当時のチャーターメンバーは、経営者のみならず、公務員、神官、住職、農業者、会社員等々その会員構成はバラエティに富んでいて、少ない会費で会の運営と事業を推進させるために、皆で汗を流して事業に取り組んだと聞いています。認証前の10年を含め、実質45年の歴史の中で、出光佐三氏より教えられた「互譲互助」という思いやりの精神

は、今日に至るまで脈々と受け継がれています。現在のシニア・クラブの活動として、2月に通常総会、11月に還暦を祝うふれあい懇親会、また「だべろう会」と称し、堅苦しいことは抜きにして、現役と膝を交えて酒を飲みながら語り合う懇親会を年に3回、その他にも現役との合同ゴルフコンペ等を開催しています。そうした活動を通じて現役との距離感を密に保つことで、会員拡大に関しての支援ができればと考えています。

本年は、『本物の「JAYCEE」であれ、愛するもののために』とスローガンを掲げた第35代椎名修理事長のもと、創立35周年を迎えた宗像JCを全面的に応援するため、記念式典及び記念事業への全員登録は勿論のこと、現役から何か頼まれれば、「ハイっ喜んで!」の精神で応えるようにOB一同心掛けています。

冒頭に紹介した先人が敬愛してやまなかった宗像大社は、三つの地域に点在する三宮から成るわけですが、その一つである沖津宮(沖ノ島)は、九州と朝鮮半島とを結ぶ玄界灘のほぼ中央に位置し、遣唐使が航海安全の祈願のため

宗像JC - 福岡県 -

「互譲互助」の 精神は、脈々と 受け継がれています



創立35周年記念事業
市民参加型ミュージカル。



ミュージカルの練習風景。

念を抱き、筆を置きます。
生涯JC! 共に頑張りましょう!

日本JCシニア・クラブ
福岡ブロック担当幹事

田中 都三